

W A I C E NOW

ワイス ナウ

Wadayama Association of
International Cultural Exchange

わだやま国際文化交流協会

事務局 朝来市市民文化部和田山地域振興課

朝来市和田山町東谷 213-1

TEL 079-672-6137

FAX 079-672-1334

第25次 内モンゴル日本語研修生を迎える

熱烈歓迎!! ^{フフホト} 呼和浩特民族学院 ^{ハクコウバイ} 白紅梅先生・^{シジリ} 希吉日さん・^{ヨウセイ} 勇生さん・^{バインタラ} 巴音塔拉さん



10月26日には市長を表敬訪問しました。

(左から) 多次勝昭市長、巴音塔拉さん、白紅梅先生、
勇生さん、希吉日さん

会長 垣尾 幸博

日本の四季で最も過ごしやすい晩秋の季節を迎えたかと思えば、年の瀬が間近になって参りました。

今年も中国内モンゴル自治区の呼和浩特民族学院から、日本語教師の白紅梅先生と3名の大学生、希吉日さん、勇生さん、巴音塔拉さんを研修生として受け入れ、多彩な研修プログラムを実施しました。例年より1か月遅い10月25日から11月25日までの期間でした。

研修生の皆さんは、和田山中学校を中心に、市内の小・中・高等学校、姫路獨協大学、神戸親和女子大学、県国際交流協会等を訪問したほか、市のイベントへの参加、ホームステイなどで充実した毎日を過ごし、日本語の学習はもちろんのこと、日本の生活や伝統文化を体験して

もらいました。このうち、各学校では児童生徒らと一緒に授業に参加したり、昔のあそびや枝豆の収穫を体験したりしたほか、内モンゴルの自然や文化の紹介などを通じて交流を深めました。大学を訪問した折には、中国からの留学生を対象にした日本語教室の授業に参加することもできました。また、茶道や生け花を体験したり、日本舞踊や雅楽を鑑賞したりする機会も得たほか、今年度も企業見学としてフジッコ様を視察させていただきました。

さらに、協会理事の山田稔先生には日本語学習の特別講座を受け持っていただき、日本語のレベルアップに取り組んでいただきました。宿泊については、竹田の神戸聖隷福祉事業団様の職員寮を拠点に、週末等には会員の方にホームステイでお世話になりました。厚くお礼申し上げます。

最終日には、和田山中学校で研修発表会を開催しました。協会の役員や中学生を前にして、研修生は流ちょう



11月22日には和田山中学校で研修発表会に臨みました。1人ずつ、すべて日本語で発表し、その上達ぶりに感心の声が上がっていました。

な日本語で滞在中の出来事や感想を発表し、出席者一同、レベルアップした日本語、そして多くの活動に積極的に参加した報告内容に感銘を受けました。この研修プログラムが、たくさんの関係者の皆様からご支援をいただき素晴らしい成果をあげていることが、今後の力強い交流へとつながることを信じています。

なお、内モンゴル自治区で教育交流事業を担っていただいております人民教育基金会の楊曼（ヤンマン）先生が、このたび現職を退かれ、名誉副理事長に就任されました。さらなるご活躍を祈念いたします。今後も一層交流が深まり広がりますよう、取り組みを進めていきたいと思っております。

研 修 日 程

10月25日(火)	関空より入国、朝来市へ
10月26日(水)	市長表敬訪問、学校音楽祭鑑賞
10月27日(木)	日本語特別講義、やぶ日本語教室
10月28日(金)	和田山中学校、フジッコ見学
10月30日(日)	播但線全線開通110周年記念事業 ハイキング(生野銀山、竹田城跡)
10月31日(月)	大蔵小学校
11月1日(火)	和田山中学校
11月2日(水)	日本語特別講義
11月3日(木)	和田山文化祭鑑賞
11月4日(金)	和田山中学校
11月5日(土)	竹田自治協ウォーキング大会
11月7日(月)	和田山中学校、姫路獨協大学訪問
11月8日(火)	朝来公民館生け花教室、朝来中学校
11月9日(水)	日本語特別講義
11月10日(木)	日本語特別講義、やぶ日本語教室
11月11日(金)	日本語特別講義
11月12日(土)	少年少女オーケストラ演奏会鑑賞
11月14日(月)	和田山高校、兵庫県国際交流協会訪問、神戸親和女子大学訪問
11月15日(火)	糸井小学校
11月16日(水)	日本語特別講義
11月17日(木)	枚田小学校
11月18日(金)	東河小学校
11月19日(土)	郷土料理教室
11月22日(火)	研修発表会
11月25日(金)	関空より出国、中国へ



山田稔理事による日本語の特別講義は、研修生たちに大好評。日本語だけではなく、日本の文化、慣習、教育制度などといったことについても教えていただきました。



和田山中学校を中心に、市内2中学校、4小学校を訪問したほか、今年は初めて和田山高校へも行きました。授業参加・見学のほか、内モンゴルの自然や観光名所等について紹介したり、民族舞踊や歌を披露したりしました。

日本語研修を終えて

◆ 白紅梅（ハクコウバイ） 呼和浩特民族学院 外語系 日本語教師

私たちの宿舎を提供してくださったのは神戸聖隷福祉事業団で、宿泊は真生園職員寮で、食事は恵生園の食堂でお世話になりました。ここは山々が並び、緑いっぱいのところですよ。竹田城跡の周りはずっと山頂だけが見えて山全体に霧が漂っており、ひょっとしたら仙人がそこで隠居生活をしているかと思う毎日でした。時々電車に乗り和田山駅まで行きましたが、途中で見た円山川は、水が澄んでいてきれいな川でした。和田山のような美しい自然を保つことができる場所は素晴らしいと思います。美しい自然環境を作ったのは美しい心を持っている人たちです。私たちは美しい自然の中で、美しい人たちにお世話になって研修をすることができました。

和田山に来てからは、国際文化交流協会の方々をはじめ、地域のたくさんの方々で大変お世話になりました。5つの家庭でホームステイもしましたが、家庭が違っても、その美しい心はよく似ていて、熱烈かつ親切に接してくださいました。また、和田山には心身障害者や高齢者を支援する施設があり、内部環境が整えられて美しい福祉集団となっています。これも美しい人たちの美しい心があってのことで、忘れられない思い出となりました。

私たちは研修期間中、和田山中学校をはじめ2中学校、4小学校及び和田山高校を訪問しました。姫路獨協大学、神戸親和女子大学も訪問し、留学生との懇談や授業見学をさせていただきました。放課後の部活動も見学させていただきました。勉強をするときは一生懸命勉強し、運動を通して体力作り、集団作りに励んでいることに感心しました。これが本当の意味での健全な成長だと思います。優秀な人材というのは勉強だけができる人ではなく、全面的に発展していく人です。そういった人材を育成するために、学校側がいろいろと工夫されていることがわかります。素質と個性を両立させる教育体制は、私たちが学ぶところだと思われま

す。わだやま国際文化交流協会は、内モンゴルとの交流を26年も続けています。一つのことを何十年も続けてやるという姿勢は、我々にとっては非常にありがたくて、幸せなことですよ。内モンゴルとの交流を大切にされ、中日友好のためにすべてを捧げてくださっている朝来市の皆様にお礼を申し上げます。



ホームステイ先で着物を体験。

◆ 巴音塔拉（バインタラ） 呼和浩特民族学院 外語系 学生

昨年、其乐木格（チリムグ）先輩と张林（チョウリン）先輩が研修生として和田山へ行きました。帰国後にいろいろなことを話し、私は4年生の時に日本へ行きたいと考えました。3年生の冬休み、「3月末に面接がありますのでがんばってください。」と先生から言われ、新学期が始まってから自己紹介や簡単な日常会話を練習しました。面接はとても緊張し、全部日本語で答えないといけないのかと不安になりました。面接が終わり、私は駄目だと思いました。しかし、5月に面接の結果が届き、私の名前がありました。最初信じられず、うそではないかと思

いかなりました。その時、先生と友だちは「これは本当ですよ。がんばってください。」と言いました。「私は合格したんだ。10月に日本へ行くんだ。」とうれしくなりました。

この1か月で私は勉強したことがたくさんあります。いろいろな所に行き、きれいな景色を見て、おいしいものを食べました。和田山は空気もいいし本当にいい所だと思いました。また、小・中学校、高校の教育制度、授業の時間など中国と日本の違う所もたくさん発見しました。大学へ帰ったら、日本で見たこと、聞いたこと全部を友達と日本語学科の後輩たちに話します。これから日本語をもっと努力して勉強し、日本へ留学するために準備を始めます。



各学校で児童生徒と交流を深めました。

◆ 勇生（ヨウセイ） 呼和浩特民族学院 外語系 学生

日本文化を勉強する気持ちを胸に抱えて、勇気を出して、わだやま国際文化交流協会へ今回の研修を申し込みました。面接で、先生たちは私たちにたくさんの質問をされました。質問に答えるのは難しかったです。今回の国際交流の研修生になったとわかった時、大変驚きました。



朝来公民館の生け花教室にも参加しました。

「百聞は一見にしかず」。人間とは、見学や討論を通して自分を啓発する生き物です。だから、今回の研修で学んだことは、きっと私の今後の学習・生活に大変役立つことと思います。思い出深い1か月間の研修を通じて、日本語の面においても、あるいは学問の面においても、本当に進歩がありました。内モンゴルに帰ってから、研修生活中に体験したこと、聞いたこと、見たことを学校の先生と学生に伝えます。自分の将来の生活、勉強、仕事に活かしてがんばっていきます。将来、私は大学院を卒業後、日本へ来て心理医師になりたいと思います。

1か月間の研修生活はとても忙しかったですが、充実して楽しかったです。私たち4人に研修のチャンスを与えて

くださった朝来市の皆様、そしてホストファミリーの皆様には厚くお礼を申し上げますとともに、皆様の健康と幸福をお祈りします。皆様、お世話になりました。ありがとうございました。

◆ 希吉日（シジリ） 呼和浩特民族学院 外語系 学生

わだやま国際文化交流協会では、私たちに合わせて5週間のスケジュールを立ててくださいました。その中で一番多かったのは、やはり学校見学でした。いろいろな科目の授業を見学しました。各科目の担当の先生は、授業を行う前に必ず今回の授業の流れ、授業の目標、目的をはっきりと書いておきます。そして、少なくとも2人の先生が教室の前後に立って授業を行います。この2点は中国の小学校、中学校と違うところだと気づき、こういった教育方式はとても効果的だと思いました。中学校では、放課後に生徒が部活動に参加して運動をしていました。勉強以外に、学校で運動してリラックスできる点が、生徒の心身の健康にすごく良いと感じました。学校の給食を何回もいただきましたが、その季節にしか取れない魚や野菜を給食に取り入れて、生徒たちは給食を食べながら季節を味わえて、とても幸せだと感じました。

私たちは日本の家庭にも行き、実際に日本の生活を体験しました。着物を用意して着付けもしてくださり、初めてのことでとてもうれしかったです。それに、巻き寿司などいろいろな日本料理の作り方を教わったので、内モンゴルに帰ってから家族や友だちに作ってあげようと思っています。また、茶道や生け花など、教科書で習ったことのないものを体験でき、充実した研修生活となりました。

32日間の研修生活があっという間に終わりました。日本語だけではなく、日本の文化、風俗習慣にも触れることができて、一生忘れられない思い出をたくさん作りました。これからもっと日本語をがんばって勉強して、大学を卒業してから絶対日本に留学します。そして、また皆様にお会いできる日を楽しみにしています。



習字にも挑戦し、児童たちと作品を交換しました。